

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	2775002831
法人名	株式会社 中和会
事業所名	中和会グループホーム ときめき苑
訪問調査日	平成 20 年 9 月 9 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 15 日
評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2775002831
法人名	株式会社 中和会
事業所名	中和会グループホーム ときめき苑
所在地	東大阪市御厨南2丁目2番6号 (電話) 06-6781-6510

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年9月9日	評価確定日	平成20年10月15日

## 【情報提供票より】(20年8月10日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤	8人, 非常勤 16人, 常勤換算 11人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	4階建ての	2階～	3階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷金	有( ) 円 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

## (4) 利用者の概要(8月10日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	0名	要介護2	7名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	62歳	最高	99歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医) 中和会中西医院、前田歯科
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長年にわたって地域で診療している医療法人中和会中西医院のグループ会社である(株)中和会が設立したグループホームである。近鉄八戸ノ里駅から徒歩3分幹線道路を少し入った場所に、平成14年11月1日既存の4階建ビルを改造して開設された。1階にデイサービスセンターを併設、2～3階が2ユニットのグループホーム、4階は共用スペースになっている。入口に繋がる通路横には植木があり、草花も植えられ気軽に入れる雰囲気がある。4階の一部は屋上になっていて、洗濯干し場や草花などが育てられている。看護師が常駐しており、職員が同伴して送迎する受診は利用者や家族等には安心感がある。医療の連携で終末期のターミナルケアの実績もある。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「病状が安定していて介護計画を変更せずに継続する場合でも、家族には充分その内容を伝えて了解の印を貰っておくことが望ましい」ということであった。3ヶ月に1回モニタリングをしているが、変化が生じた場合は担当職員の記録や医師の意見、家族の要望などを基に、ケア会議を開いて見直しをしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的を職員全員が理解し、自己評価及び外部評価の結果を踏まえ、自主点検表を作成して検討し、実践に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催し、自治会、民生委員、地域包括支援センター、家族や利用者、ホーム職員等が出席し、意見要望など全員が発言できるよう議事を進行し、議事録を作成して業務の改善に繋げている。議事録は家族に郵送し公表している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等に毎月、担当者が写真や手書きの近況報告を郵送している。職員の異動や連絡事項などのお知らせもその都度同封している。各ユニットに意見箱を設置し、来訪された家族には積極的に声かけをして、意見や要望などを聞くように努め、運営に反映する取り組みをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との交流に積極的に取り組んでいる。自治会の行事(秋祭り、盆踊りなど)に利用者と職員と一緒に参加し、寄付をしたりしている。ホームの行事には、自治会やボランティアの方々を招いて交流を図っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ご利用者様が、地域との係わり合いの中で生きがいを持って暮らし、安心して家庭的な生活を送れるようになります。」を理念とし、各階に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ミーティングや内部研修のなかで、職員全体で取り組むように話し合い、具体的なケアについて統一を図るよう努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流に積極的に取り組んでいる。自治会の行事(秋祭り、盆踊りなど)に利用者と職員が一緒に参加し、寄付をしたりしている。ホームの行事には、自治会やボランティアの方々を招いて交流を図っている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を職員全員が理解し、自己評価及び外部評価の結果を踏まえ、自主点検表を作成して検討し実践に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、自治会、民生委員、地域包括支援センター、家族や利用者、ホーム職員等が出席し、意見要望など全員が発言できるよう議事を進行し、議事録を作成して業務の改善に繋げている。議事録は家族に郵送し公表している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	随時訪問して、市・担当者の運営推進会議への出席を要請している。また、担当者にホームの運営や現状について伝えて相談し、助言を受けて改善するようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等に毎月、担当者が写真や手書きの近況報告を郵送している。職員の異動や連絡事項などのお知らせも、その都度同封している。家族がホームへ来訪しやすい雰囲気づくりをしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに意見箱を設置している。来訪された家族には積極的に声かけをして、意見や要望などを聞くよう努め運営に反映する取り組みをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は最小限に抑える努力をしている。離職による影響がないよう速やかに対応し、家族や利用者に不安を与えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部研修を受けられるよう勤務調整などの支援をしている。内部研修は全職員が受けるように、同じテーマで数日開催するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会の会員となり、研修会などで同業者と交流を図っている。他施設への実習や、地域包括支援センター主催の勉強会に参加して、業務の質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と一緒にの見学や、同一施設内のデイサービスやショートステイを利用しながらホームの様子を理解して貰うなど、馴染みの関係作りをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の過ごし方のなかで、一緒に食事や家事をしながら、利用者の意向を知り、和やかに共に支え合う関係を築いている。		
<b>kaji</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族との情報交換やアセスメントにより、全職員が情報を共有し、日々の関わりの中で声かけをして利用者の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者を決めてきめ細かい情報を収集し、ケア会議を行い、医師の意見や、家族の要望などを取り入れて、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が安定していても、3ヶ月に1回モニタリングをしている。変化が生じた場合は、職員の記録や医師の意見、家族の要望などを基に、ケア会議を開いて見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階にデイサービスが併設されているが、ボランティアの訪問によるイベントには、職員と利用者が参加して交流を持ちながらの支援が来ている。利用者の楽しみにもなっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列の医療機関があり、その受診者の利用者が多い。その他の利用者も、本人と家族の了解のうえで受診している。送迎と職員同伴の受診は、本人家族共に安心感がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を作成している。利用の際に病状が重度化した場合のあり方について説明して、同意書を貰っている。終末期にはターミナルケアに関わる対応方針を家族、医師、看護師、職員を交え意志確認書を作成している。		
<b>かかわる</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングの折に、職員にプライバシーの保護について心がけるよう話し合っている。日常のケアで利用者の誇りを損ねることのないよう声かけには注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの状態に応じたペースを大切にして、できるかぎり利用者の希望に合わせた対応をしている。全体にゆったりとした寄りそうケアが行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の指体操や歌などで和やかな雰囲気のなか、利用者一人ひとりのペースにあわせ職員と一緒に食事をしている。利用者の好みを取り入れた献立を作るようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	比較的自由に入浴を楽しんで貰えるよう支援している。希望によりデイサービスの広い浴場にも入浴できる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お花見や誕生会などの年間行事計画を作成している。その他ボランティアによる交流会や、利用者の手作業による作品作りなどの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の近辺は車の往来も多く、近くに散歩に適した場所がない。外出の回数は少ないのが現状であるが、できる限り応じられるよう努めている。	○	利用者全体が歩行介助を要する現状では、外出に替わる工夫が必要と思われる。短時間でも屋上を利用して戸外で過ごす機会を作ることを期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。昼夜を通して利用者の所在を把握しているが、安全を確保できないと判断した時にはユニット出入口の鍵をかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	設備の保守点検を年2回実施し、水・食品の備蓄をしている。消防署の指導による防火、非難訓練を行っている。	○	駅に近く商店街やマンション、前には広大な空地があり、隣近所との交流が得られ難い環境にある。日ごろより地域住民や警察署、消防署等との連携を図りながら事業所の災害時対策に関する理解を求め協力体制を築いていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立により栄養バランスと、食事量や水分量などを確実に記録し、点検して一人ひとりの状態に応じたケアができるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は既存のビルを改造しているので、スペースが限られているが、そのなかで出来るかぎり居心地よく過せるよう、手作り品や季節の花などを飾り、ソファを配置してくつろげるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた家具や好みの小物などを持ち込み、利用者や家族と相談しながら飾り付けをして、居心地よく過せるよう支援している。		